

民事訴訟法研究 I

選択 2単位

長島 光一

1. 授業の概要(ねらい)

民事訴訟法は、民法などの実体法の知識を前提に、その権利を実現するための手続を定めた重要なものである。権利を「絵に描いた餅」にしないためには、民事訴訟手続の理解が必要不可欠といえる。

本講義では、民事訴訟法学の基本的な手続と理論を学ぶとともに、その考え方を応用し、社会の様々な紛争にいかなる対応ができるのかを考えていく。そして、各自が当事者になった場合を想定し、紛争解決の技法を会得してもらう。

基本部分につき講義形式の授業を行うほか、受講生に報告を求めることもあり、多くの事例について受講生とともに考え、理解を深めていきたい。

民事訴訟法研究 I は、民事訴訟法の総論的なテーマ、訴えの提起から審理を中心に毎回テーマを決めて講義を行い、受講生と意見交換をし、民事訴訟制度について見識を高めていく。その際に、映像資料も多様し、問題理解に資するようにしたい。

なお、受講生の関心のあるテーマによって、授業の計画は、一部変更になることがある。

2. 授業の到達目標

①民事訴訟の流れが理解でき、民事訴訟法学の主要な問題状況を把握できる。

②手続法の考え方(手続的正義・手続保障等)を身につけ、社会に応用できる。

③現代社会の様々な紛争に対し、問題解決の技法を身につけ、対応策を考えられる。

3. 成績評価の方法および基準

授業態度やレポート等で総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

詳細は開講時に指示する。

参考文献

三木浩一＝笠井正俊＝垣内秀介＝菱田雄郷 『民事訴訟法(第3版)』(2018年) 有斐閣

高橋宏志＝高田裕成＝畑瑞穂編 『民事訴訟法判例百選(第5版)』(2015年) 有斐閣

5. 準備学修の内容

事前に次週のテーマを予告するので、参考文献等の該当箇所を一読しておくこと。(特に、テーマに関する判例百選の該当判例の事案の把握をすることで、何が争点なのか理解をしておくことよ。)

報告担当になった場合は、準備を行うこと。

6. その他履修上の注意事項

民事訴訟の全体像を理解しておくことが望ましい。

大学院の授業であるため、各自の問題意識が重要となる。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンスー法学における民事訴訟法の位置づけ
- 【第2回】 紛争解決学ー裁判による解決とADR
- 【第3回】 司法制度改革ー法曹養成と民事訴訟制度の改革とその成果
- 【第4回】 訴訟物論争ー訴訟手続の開始における請求の問題
- 【第5回】 裁判所の役割ー裁判官の思考プロセス
- 【第6回】 当事者ー当事者が裁判を利用する理由
- 【第7回】 弁護士ー訴訟代理人の活動の実際
- 【第8回】 民事訴訟法の原則ー民事訴訟法学の理念
- 【第9回】 訴訟審理の進め方ー口頭弁論のあり方
- 【第10回】 事実認定ー証拠収集の方法
- 【第11回】 鑑定ー専門家の意見の評価
- 【第12回】 科学的証拠の取扱いーDNA鑑定やデジタルフォレンジックの活用
- 【第13回】 証明責任論ー現代型訴訟における証拠の偏在
- 【第14回】 訴訟上の和解ー民事訴訟における当事者間のやり取り
- 【第15回】 まとめ